

# 色えんぴつ画で日美絵画展に初入賞！ 頑張ってきた自分へ神様からのご褒美

「夢みたいな嘘みたいなことで幸せです」  
そう言葉をお口にしているのは、色えんぴつ画を描いて2年という釜谷眞丹子さん(77歳)。柔らかくて瑞々しいタッチが印象的な釜谷さんの作品が第11回日美絵画展で佳作を初受賞されました。元々趣味で習っていたそうですが、以前ライブでも紹介した色えんぴつ画家・古川武俊さんとの出会いを機に本格的に描いていくようになりました。

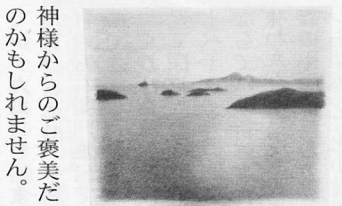
「ブルーであっても、赤や黄色などが重なっていて、まるで浮き上がっているように見えたんです。自分が描くのが本当に楽しいんですよ」

実は、「主人を早くに亡くし、仕事に子育てにと苦労した釜谷さん。ようやく自分のために時間を使えるようになり、一所懸命取り組んだ色えんぴつ画。そこで掴んだ喜びの受賞は...

分が今まで描いたのは何だつたらうって...」  
やる気に溢れた釜谷さんは、古川さんを喫茶店に呼び出したら自分の作品を見てもらうように、年をとったら心臓が強くなるんですよ」と笑いませ、とことん突き詰めて頑張る性格。古川さんも驚くほど、腕を上達させていききました。



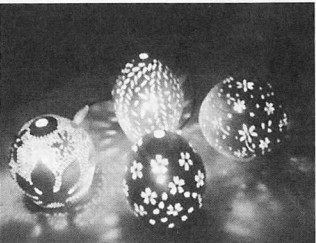
「夢みたいな嘘みたいなことで幸せです」  
そう言葉をお口にしているのは、色えんぴつ画を描いて2年という釜谷眞丹子さん(77歳)。



受賞作は九十九島を自分なりの表現を加えて制作。これは練習作品です。

## オリジナルランプ作りに参加してみませんか？

どんより雨雲が続き、気持ちもめいりがちなこの季節。ランブシエードの光でお部屋をばっと華やかにしてみませんか？  
地域の活性化を目指す「世知原グリーンツーリズム推進協議会」が、幻想的な灯りで癒しのひとときを過ごしてもらおうと、『陶器のランブシエード作り』を開催。只今、参加者を募集しています。体験は、すでに素焼きされた器に花びらや星などの好きな模様を彫っていくという簡単なもの。武雄市の窯元さんが丁寧に指導してくれるので、誰でも上手に仕上げる事ができますよ。



**アルカス**  
パーティー会場  
(打ち上げ・懇親会など)  
レオプラザホテル  
☎22-4141

日時：7月21日(水)午前10時から4時間程度(昼食持参) 場所は世知原活性化施設。参加費は材料費込みで4900円(大)と3900円(小)が選べます。定員15名で7月11日(日)〆切。詳しくは73・3636(同協議会)まで。

## 四季の移り変わりを映像化：吉井町の田園で「お米プロジェクト」

緑の深い山々と一帯に広がる田園。バックミュージックにはハープやフルートなどケルト調の音楽が流れ、まるで映画に出てくるヨーロッパの片田舎のよう。そんなのどかな風景からスタートする「お米プロジェクト2009」というDVDに出会いました。4月の水田作りから田植え、草取り、稲刈りや掛け干しに至るまで約220日。米作りの全作業が660カットのスライドショーによって1時間程度のDVDに収められています。

そんなプロジェクトを企画、手掛けたのは吉井町に住む中川哲郎さん(51歳)です。父はサラリーマン、母と祖父が農業を営む兼業農家の家庭に生まれた中川さん。幼少や少年時代、田植えや稲刈りのお手伝いをした記憶は数える程度。米農家に生まれながら、どのような米ができるのか、お店に並ぶのか、ほとんど知らぬまま地元の高校を卒業し都会へと出て行きました。

そんな中川さんは3年前、実家の事情で慣れ親しんでいた福岡から帰郷。家を継ぐつもりではなかったが「今もこうして土地があって、教えてくれる母も近くにいます。母が元氣なうちに米作りのノウハウを受け継いでいこう」と決意、手伝うことから始めました。しかし、まだ見習いの身。どうやって米ができるのか全てを把握できていかなかった中川さんは自分と重ね合わせ「都会で暮らす友人ははじめ、他にもっと知らない人たちがいるはず。



動画の閲覧、DVDへのお問合せはHPで。  
<http://planetary-n.jimdo.com/>

幼い頃、両親に口すっぱく言われていた「お米は1粒も残しなさんな」。田植えや収穫、といったイベント行事だけが注目を浴びる米づくりですが、そこに辿り着くまでのお百姓さんの苦労と一粒一粒に込められた精魂。自然の営みの深さと大切さを教えてくれる味わい深いDVDです。

友人など6人でプロジェクトをスタートしました。「水田の土づくりは大変です。みぞの土を上げ、畦を燃やし、草を刈る。耕して水をためながらも、また耕して土をならしていくんですよ」